



脳性まひってというのは？



A. 病気ではなく、後遺症のひとつだよ。

脳性まひは病気ではないんだよ。

出産のときや生まれてから4週間以内に、何らかの原因(未熟児とか仮死など)で脳の一部に傷がついたための後遺症、なんだ。

手足がこわばって硬くなったり(痙直型:けいちよくがた)、手足が余分に動いてしまったり(アトリーゼ型)、バランスがとりにくかったり(失調型)など、運動麻痺の型はいろいろあるんだ。

脳というのは、手や足を動かすために命令を出したり(運動神経)、音を耳で聞いたり光を目で見たり、皮膚で痛いとか暖かいと感じたり(感覚神経)する働きがあるんだ。

覚えたり、思い出したり、考えたり(高次神経)もするよね。

傷がつく場所によって、出来ないことがいろいろと違ってきてしまうんだよ。

歩くことはできないけれど、おしゃべりが大好き、という子どももいるし、手を使うのは得意だけれど話せない子どももいる。

出産前後で脳に傷がつく場合のほとんどは、脳の運動神経の部分に傷がついてしまうんだ。

脳性まひの障がいは主に運動発達分野(首の座り、這い這い、握る、立つ、歩くなど)が遅れたりうまくいかない、といったことになるんだね。

筋肉や骨は傷ついても、うまくつないでやれば元通りの働きをすることができるんだ。

でも、脳の神経は一度傷ついてしまうと新しく出来ないんだね。

傷ついた分だけ働きが少なくなって、後遺症として生涯を残すことになるんだよ。

だけど、子どもには「発達する」という大きな武器があるんだ。

残っている脳が、損傷した部分を補ってくれるんだよ。

だから、いろいろなことができるようになるんだよ。

治らないから、とってあきらめて放っておくと、発達する力が弱まってしまう。

また、まちがった方向に発達し、障がいを大きくしてしまうこともあるんだ。

正しく治療すれば余計な障がいを防ぐことができるし、より良い状態に成長することも出来るんだよ。

[《MENU》](#)

[《知的障がっていうのは？》](#)

[《発達障がってなに？》](#)

2022-02-21 掲載